

「コロナ禍の中で、一年を振り返って」

加茂法話会 令和二年十一月十八日

一、第三十二祖大満弘忍禪師から、その弟子へ

□ 神秀の詩

身是菩提樹

身は是れ菩提樹

心如明鏡台

心は明鏡台の如し

時時勤拭拭

時々じじに勤めてきんめてふし拭ふ拭ふし

莫使惹塵埃

塵埃じんあいを惹ひかしむること勿なかれ

□ 慧能の詩

菩提本無樹

菩提本樹無し

明鏡亦非台

明鏡も亦た台に非ず

本来無一物

本来ほんらい無むい一いち物もつ

何処惹塵埃

何いずれの処ところにか塵埃じんあいを惹ひかん

二、今年は、泊りがけで出かけることはないけれども、境内の普請が続いた。

墓の整備、杉や雑木の伐採、それに加えて、水道の整備、山の水をずっと使ってきた。

六十年近く使っているコンクリートのタンクに傷みが来ている。

六月十九日に検査受ける。大腸菌はじめ、10の項目が10分の1以下。

一般細菌だけが基準を100とすると150。水を飲むときは煮沸して飲んでください。

◇人間の腸内には百兆個の腸内細菌がいる。そして、それぞれに10個くらいのウイルスがいる。心の時代「敵対と共生のはざま」東京大学名誉教授・山内一也

三、身心これ不染汚なれども、淨身の法あり、淨心の法あり。ただ身心をきよむるのみにあらず、

国土こくど樹下じゅげをもきよむるなり。国土こくどいまだかつて塵穢じんえあらざれども、きよむるは諸仏之所

護念ごねんなり。仏果ぶつぐわにいたりてなほ退せず、廃せざるなり。その宗旨、はかりつくすべきことかたし。作法これ宗旨なり、得道これ作法なり。『正法眼蔵』「第五十四洗淨」の巻

より

↓身心は不染汚であるけれども、淨心の法があり、心がある。ただ身心を淨めるだけでなく、

国土、樹下をも淨めるのである。国土がまだいつといて塵穢ちりけがれはないのであるけれども、淨

めるのは「諸仏の所護念」である。仏果に至ってもさらに退転しないし、廃やめないのである。

その宗旨(大切な趣旨)は、測りつくすことができない。作法が宗旨であり、得道は作法である。

水野弥穂子訳

東龍寺住職 渡邊宣昭 合掌